

# キヤノンマーケティングジャパン株式会社 2023年第2四半期 決算説明

2023年7月26日  
取締役上席執行役員 蛭川 初巳

- 本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
- 本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、2023年第2四半期決算説明会にご参加いただき、誠に有難うございます。

■ 決算のポイント	P.3
■ 業績サマリー	P.4、7
■ 営業利益分析	P.5、8
■ セグメント概要	P.6、9
■ セグメント情報	P.10～13
■ グループITソリューション売上	P.14～15
■ 業績予想サマリー	P.16
■ 業績予想 セグメント情報	P.17～19
■ 財務指標推移	P.20
■ 主要製品売上・台数	P.21
■ 参考資料	P.23～33

それでは、2023年第2四半期決算と業績予想についてご説明致します。

このアジェンダに沿って説明を進めて参ります。

- 1 第2四半期は増収となるも、販管費の増加等により減益
- 2 ITソリューション事業は継続して好調に推移し2桁成長を実現
- 3 営業利益等を上方修正し、年間配当額を100円に増配

3ページ目は、2Q決算のポイントになります。

第2四半期は、キヤノン製品の供給回復やITソリューション事業の好調により、対前年で増収となったものの、荒利率の悪化や、販管費の増加により、減益となりました。

ITソリューション事業は昨年に引き続き好調に推移し、対前年プラス12%の2桁成長の実績となりました。

また、年間業績予想については、営業利益、経常利益、当期純利益の上方修正を実施するとともに、年間配当額については、90円から、100円に増配することと致しました。

## 業績サマリー 第2四半期(4月～6月)

(単位：億円)

	2022年 2Q	2023年 2Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,425	1,480	+55	+4%
売上総利益	(35.3%) 502	(33.7%) 498	(△1.6%) △4	△1%
営業利益	(9.2%) 130	(8.0%) 118	(△1.2%) △12	△9%
経常利益	(9.6%) 137	(8.4%) 124	(△1.2%) △13	△9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(6.6%) 93	(5.5%) 82	(△1.0%) △11	△12%

4

4ページ目は、2Qの業績サマリーです。

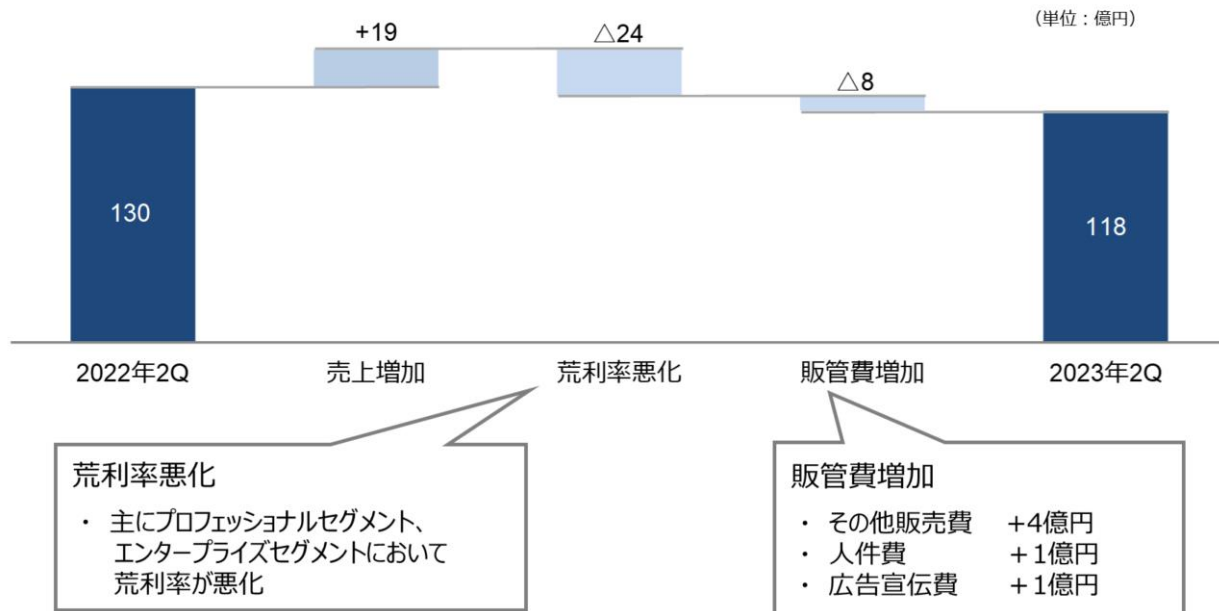
売上は、キヤノン製品の供給回復に加え、ITソリューション事業の好調が継続していることから、対前年4%増の1,480億円となりました。

営業利益は、プロフェッショナルセグメントの産業機器で前年同期に複数の大型案件があり、それらの剥落により荒利が減少しました。また、荒利率の悪化、販売活動はじめ様々な活動が活発化したことによる販管費の増加により、対前年12億円減少の118億円となりました。

なお、産業機器の実績については、当初の計画通りに進捗している状況です。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、対前年11億円減少の82億円となりました。

# 営業利益分析 第2四半期(4月～6月)



5ページ目は、2Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が19億円増加しております。

荒利率については、主に、プロフェッショナルセグメントにおいて、ヘルスケアの売上構成比が増加したこと、また、エンタープライズセグメントにおいて、ハードウェアの割合が高い大型のIT基盤案件を獲得したことにより、悪化しております。プロフェッショナルセグメントのヘルスケアは、SIサービスを中心に事業を行っており、SEの費用等を販管費ではなく、原価に組み込むために、プロダクションプリンティングや産業機器事業よりも荒利率が低くなっております。

販管費については、IT費用をはじめとする「その他販売費」や「人件費」等が増加したことにより、8億円増加しております。

なお、第2四半期の販管費の詳細は27ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

## セグメント概要 第2四半期(4月～6月)

(単位：億円)

	2022年 2Q		2023年 2Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	315	35	327	33	+12	△2
エンタープライズ	494	41	529	40	+35	△2
エリア	556	40	576	43	+20	+3
プロフェッショナル	111	19	102	9	△9	△10
その他	△51	△5	△55	△7	△3	△2
合 計	1,425	130	1,480	118	+55	△12

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

6

6ページ目は、2Qのセグメント別の実績概要です。

売上は、プロフェッショナルセグメントで減収となりましたが、コンシューマセグメント、エンタープライズセグメント、エリアセグメントで増収となりました。

営業利益は、コンシューマセグメント、エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで減益となり、エリアセグメントで増益となりました。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

## 業績サマリー 第2四半期累計(1月～6月)

(単位：億円)

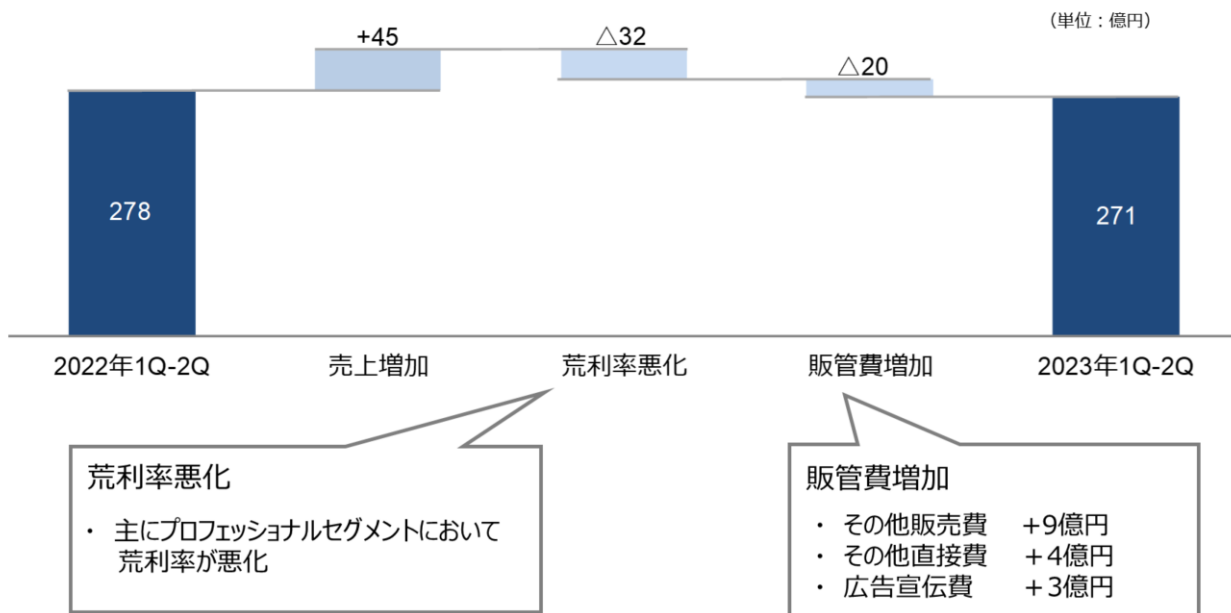
	2022年 1Q-2Q	2023年 1Q-2Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	2,899	3,028	+129	+4%
売上総利益	(34.8%) 1,007	(33.7%) 1,020	(Δ1.1%) +12	+1%
営業利益	(9.6%) 278	(8.9%) 271	(Δ0.7%) Δ7	Δ3%
経常利益	(9.8%) 284	(9.2%) 279	(Δ0.6%) Δ6	Δ2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(6.7%) 194	(6.2%) 187	(Δ0.5%) Δ7	Δ4%

7

7ページ目からは、累計の実績です。

2023年上期は、キヤノン製品の供給回復に加え、ITソリューション事業の好調が継続していることから増収となりましたが、荒利率の悪化や、販管費の増加により、減益となりました。

# 営業利益分析 第2四半期累計(1月～6月)



8ページ目は、上期の営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が45億円増加しております。

荒利率については、主にプロフェッショナルセグメントにおいて、前述の通り、ヘルスケア事業の構成比が高まったために荒利率が悪化しております。

販管費については、IT費用等の「その他販売費」や、供給回復に伴う製品出荷による物流費等の「その他直接費」等が増加したことにより、20億円増加しております。

なお、第2四半期累計の販管費の詳細は28ページの「販管費の内訳」をご参照ください。



## セグメント概要 第2四半期累計(1月～6月)

(単位：億円)

	2022年 1Q-2Q		2023年 1Q-2Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	628	66	641	62	+14	△4
エンタープライズ	1,005	95	1,075	99	+70	+4
エリア	1,128	85	1,186	93	+58	+7
プロフェッショナル	239	41	220	29	△19	△12
その他	△101	△9	△95	△11	+7	△2
合 計	2,899	278	3,028	271	+129	△7

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

9

9ページ目は、上期のセグメント別の実績概要です。

売上は、プロフェッショナルセグメントで減収となりましたが、コンシューマセグメント、エンタープライズセグメント、エリアセグメントで増収となりました。

営業利益は、コンシューマセグメント、プロフェッショナルセグメントで減益となり、エンタープライズセグメント、エリアセグメントで増益となりました。

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラやITプロダクトの増加により、増収
- ✓ 営業利益は、広告宣伝費等の販管費の増加により、減益

	2Q実績		
	2022年	2023年	対前年
売上高	315	327	+4%
営業利益	35	33	△7%
利益率	11.1%	10.0%	△1.1%

■ コンスーマ製品（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ	(台数)	+29%	+29%	-	-	-
インクジェットプリンター	(台数)	△35%	△12%	-	-	-
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	△6%	△3%	-	-	-

続いて10ページ目からは、セグメント別の実績をご説明致します。  
 まずはコンスーマセグメントのご説明です。

2Qの売上は、インクジェットプリンター及びインクカートリッジが減少となったものの、  
 レンズ交換式デジタルカメラやITプロダクト等の増加により、対前年4%増の327億円となりました。  
 営業利益は、広告宣伝費等の販管費が増加したことにより、対前年2億円減少の33億円となりました。

（レンズ交換式デジタルカメラ）

レンズ交換式デジタルカメラについては、2022年12月に発売した「EOS R6 Mark II」、  
 2023年3月に発売した「EOS R50」、4月に発売した「EOS R8」、6月に発売した「EOS R100」等の  
 EOS Rシリーズが好調に推移し、台数は対前年プラス29%となりました。  
 交換レンズについては、前年に価格改定前の駆け込み需要があり、その反動等により、売上は減少しました。

（インクジェットプリンター）

インクジェットプリンターについては、市場の縮小により、台数は対前年マイナス12%となりました。  
 インクカートリッジについては、プリントボリュームの減少等により、売上は減少しました。

（ITプロダクト）

ITプロダクトについては、高性能PCやPC周辺機器の新製品の販売が堅調に推移したことにより、  
 売上は増加しました。

- ✓ 売上高は、ビジネス機器他は減少したものの、ITソリューションが好調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、人件費等の販管費の増加により、減益

(単位：億円)

	2Q実績		
	2022年	2023年	対前年
ビジネス機器他	153	145	△5%
ITソリューション	341	383	+12%
売上高計	494	529	+7%
営業利益	41	40	△4%
利益率	8.4%	7.5%	△0.9%

## ■ (ご参考) 主要関係会社実績

## キヤノンITソリューションズ

	2Q実績		増減	
	2022年	2023年	金額	率
売上高	273	307	+34	+12%
営業利益	27	28	+1	+4%

## キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	(金額)	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
受注高	(金額)	+22%	+6%	-	-	-
受注残高	(金額)	+12%	+9%	-	-	-

11

11ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

2Qの売上は、ITソリューションが好調に推移したことにより、対前年7%増の529億円となりました。  
営業利益は、人件費等の販管費の増加により、対前年2億円減少の40億円となりました。

## (ビジネス機器他)

主要ビジネス機器については、製品の供給が回復したことにより、オフィスMFPの台数は増加しました。  
レーザープリンターについては、前年同期に大型案件があり、その剥落により台数は減少しました。  
オフィスMFPの保守サービスについては、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は微減となりました。  
レーザープリンターカートリッジについては、大手企業向けでプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。  
これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年マイナス5%となりました。

## (ITソリューション)

ITソリューションについては、流通業や金融業向けのSI案件の売上が増加したことに加え、  
大型のIT基盤案件の獲得やデータセンター 2号棟の売上が順調に推移したこと等により、  
売上は大幅に増加しました。  
これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年プラス12%となりました。

## 【キヤノンITソリューションズ実績／売上高・受注残高】

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は、対前年12%増の307億円となりました。  
営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年1億円増加の28億円となりました。  
受注高は、製造業向けのSI案件の受注高が減少したものの、金融業向けや文教向けのSI案件が  
順調に推移したことに加え、IT基盤案件の獲得等により、対前年プラス6%となりました。  
また、受注残高については、受注高と同様の傾向であることに加え、流通業向けSI案件が順調に推移し、  
対前年プラス9%となりました。

- ✓ 売上高は、ビジネス機器他で製品供給が回復したことに加え、ITソリューションが順調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益

(単位：億円)

	2Q実績		
	2022年	2023年	対前年
ビジネス機器他	395	406	+3%
ITソリューション	162	170	+5%
売上高計	556	576	+4%
営業利益	40	43	+8%
利益率	7.2%	7.5%	+0.3%

## ■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	2Q実績		増減	
	2022年	2023年	金額	率
売上高	242	257	+15	+6%
営業利益	11	12	+1	+6%

12

12ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

2Qの売上は、主要ビジネス機器の供給が回復したことに加え、ITソリューションが順調に推移したことにより、対前年4%増の576億円となりました。

営業利益は、主要ビジネス機器を中心とした売上増加に伴う荒利の増加により、対前年3億円増加の43億円となりました。

## (ビジネス機器他)

主要ビジネス機器については、製品供給の回復が引き続き進んだことにより、オフィスMFPの台数は増加しました。レーザープリンターは、2月の価格改定を見据えた駆け込み需要があり、その反動により、台数は減少しました。オフィスMFPの保守サービスについては、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は微減となりました。レーザープリンターカートリッジについては、2月に実施した仕入価格上昇に伴う価格改定の効果等により、売上は増加しました。

これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年プラス3%となりました。

## (ITソリューション)

ITソリューションについては、ビジネスPCの供給が回復したことや、法改正のためのIT導入補助金活用に関する案件が増加したことに加え、中小企業のIT環境をトータルで支援する「まかせてIT DXシリーズ」のラインアップを拡充し受注件数が増加しました。

これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年プラス5%となりました。

## 【キヤノンシステムアンドサポート実績】

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年6%増の257億円となりました。営業利益は、主要ビジネス機器の供給が回復したことに加え、ITソリューションが順調に推移したことにより、売上の増加に伴い荒利が増加し、対前年1億円増加の12億円となりました。

- ✓ 売上高は、プロダクションプリンティングやヘルスケアは増加したものの、産業機器の減少により、減収
- ✓ 営業利益は、産業機器の売上の減少に伴う荒利の減少により、減益

(単位：億円)

	2Q実績		
	2022年	2023年	対前年
プロダクションプリンティング	22	25	+10%
産業機器	71	37	△49%
ヘルスケア	17	41	+139%
売上高計	111	102	△8%
営業利益	19	9	△51%
利益率	17.1%	9.1%	△7.9%

■ (ご参考) 主要関係会社実績  
 キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	2Q実績		増減	
	2022年	2023年	金額	率
売上高	21	23	+2	+11%
営業利益	1	2	+0	+47%

13

13ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

2Qの売上は、プロダクションプリンティングやヘルスケアは増加したものの、産業機器の減少により、対前年8%減の102億円となりました。営業利益についても、産業機器の売上の減少に伴う荒利の減少により、対前年10億円減少の9億円となりました。

#### (プロダクションプリンティング)

プロダクションプリンティングについては、高速連帳プリンターに加え、プリントマネジメントシステム等が好調に推移したこと等により、売上は対前年でプラス10%と大幅に増加しました。

#### 【キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ実績】

主要関係会社であるキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は、対前年11%増の23億円となりました。営業利益は、売上の増加に伴う荒利の増加により、対前年5千万円増の2億円となりました。

#### (産業機器)

産業機器については、前年同期に半導体製造関連装置等の複数案件があり、それらの剥落により、売上は対前年でマイナス49%となりました。

#### (ヘルスケア)

ヘルスケアについては、キヤノンメディカルシステムズからの事業移管に加え、病院向けの大型案件や、診療所向けのオンライン資格確認システム案件、調剤薬局向けの電子処方箋案件が増加したことにより、売上は対前年でプラス139%と大幅な増加となりました。

# グループITソリューション売上 第2四半期(4月～6月)

(単位：億円)

	コンスーマ		エンタープライズ		エリア		プロフェッショナル		その他		合計		構成比
	2022年 2Q	2023年 2Q	2022年 2Q	2023年 2Q	2022年 2Q	2023年 2Q	2022年 2Q	2023年 2Q	2022年 2Q	2023年 2Q	2022年 2Q	2023年 2Q	2023年 2Q
SIサービス	0	0	163	177	24	28	17	41	△5	△6	200	241	37%
(対前年)		-		+9%		+19%		+139%		-		+21%	
保守・運用サービス /アウトソーシング	0	0	96	100	25	26	4	4	△6	△6	119	124	19%
(対前年)		-		+4%		+4%		△5%		-		+4%	
ITプロダクト・システム販売	75	76	82	106	113	116	0	0	△9	△11	260	287	44%
(対前年)		+2%		+29%		+3%		-		-		+10%	
合計	75	76	341	383	162	170	21	45	△19	△23	579	651	
(対前年)		+2%		+12%		+5%		+113%		-		+12%	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

14ページ目は、グループトータルのITソリューションの売上です。

「SIサービス」がプロフェッショナルセグメントのヘルスケアを中心に好調に推移したことに加え、「保守・運用サービス/アウトソーシング」「ITプロダクト・システム販売」が順調に推移したことにより、グループITソリューション全体の売上は、対前年プラス12%となりました。

次に、セグメントごとのポイントについてご説明致します。

コンスーマセグメントについては、高性能なPCやPC周辺機器の売上が堅調に推移し、「ITプロダクト・システム販売」が対前年プラス2%となりました。

次に、エンタープライズセグメントについてご説明致します。

「SIサービス」は、キヤノンITソリューションズで、流通業や金融業向けの案件が順調に推移したことにより、対前年プラス9%となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」は、キヤノンITソリューションズで、データセンター2号棟の売上が増加したことにより、対前年プラス4%となりました。

「ITプロダクト・システム販売」は、キヤノンマーケティングジャパンで、ビジネスPCが好調に推移したことや、キヤノンITソリューションズで、大型のIT基盤案件を獲得したことにより、対前年プラス29%となりました。

次に、エリアセグメントについてご説明致します。

「SIサービス」は、キヤノンシステムアンドサポートで、法改正のためのIT導入補助金活用の提案を強化したことにより基幹業務ソフトの販売が好調に推移し、対前年プラス19%となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」は、キヤノンシステムアンドサポートで、「まかせてIT DXシリーズ」のラインアップを拡充し受注件数が増加したことにより、対前年プラス4%となりました。

「ITプロダクト・システム販売」は、ビジネスPCが堅調に推移したことにより、対前年プラス3%となりました。

次に、プロフェッショナルセグメントについてご説明致します。

ヘルスケアでキヤノンメディカルシステムズからの事業移管に加え、病院向けの大型案件や、診療所向けのオンライン資格確認システム案件、調剤薬局向けの電子処方箋案件が増加したことにより、「SIサービス」は対前年プラス139%と大幅な増加となりました。

# グループITソリューション売上 第2四半期累計(1月～6月)

(単位：億円)

	コンSUM		エンタープライズ		エリア		プロフェッショナル		その他		合計		構成比
	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年	2023年
SIサービス	0	0	317	352	53	60	51	79	△9	△12	412	478	36%
(対前年)		-		+11%		+13%		+54%		-		+16%	
保守・運用サービス /アウトソーシング	0	0	198	217	49	53	7	7	△10	△12	244	264	20%
(対前年)		-		+10%		+7%		△6%		-		+8%	
ITプロダクト・システム販売	148	150	189	214	235	247	0	0	△19	△8	552	604	45%
(対前年)		+2%		+14%		+5%		-		-		+9%	
合計	148	150	703	783	337	360	58	86	△39	△33	1,208	1,346	
(対前年)		+2%		+11%		+7%		+46%		-		+11%	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

15ページ目は、上期のグループトータルのITソリューションの売上です。

「SIサービス」を中心に好調に推移し、グループITソリューション全体の売上は対前年プラス11%となりました。

## 業績予想サマリー

(単位：億円)

	2023年 年間 (前回予想)	2023年 年間 (今回予想)	増減		2022年 年間 (実績)	前年比較	
			金額	率		金額	率
売上高	6,240	6,240	-	-	5,881	+359	+6%
営業利益	(8.0%) 500	(8.3%) 520	(+0.3%) +20	+4%	(8.5%) 499	(Δ0.2%) +21	+4%
経常利益	(8.2%) 514	(8.6%) 534	(+0.3%) +20	+4%	(8.7%) 510	(Δ0.1%) +24	+5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(5.7%) 356	(5.8%) 360	(+0.1%) +4	+1%	(6.0%) 356	(Δ0.3%) +4	+1%

16

16ページ目は、業績予想サマリーです。

上期は、キヤノン製品の供給回復や引き続きITソリューション事業が好調に推移する等、当初の計画を上回るペースで進捗することが出来ました。

今後の経済情勢についても、個人消費、企業の設備投資も、順調に推移する見通しとなっており、当社としましては、ITソリューションの利益ある成長を加速させるとともに、キヤノン製品の拡販に努めて参ります。また、仕入価格の上昇に伴う、価格改定も想定以上に順調に進んでおります。なお、年初から計画していた、新サービスに関わるソフトウェア開発、IT投資、新たなお客さま獲得のための広告宣伝や販促を行う等、今後の成長に向けた先行投資については、積極的に進めていく予定です。

このような状況を踏まえ、今年度の業績に関しては、営業利益を20億円、経常利益を20億円、当期純利益を4億円、上方修正致します。

国内の物価上昇等の国内景気を下押しするリスクを十分注視しつつ、提案の質を更に高めていくことで、高付加価値な製品・サービスの提供に努めて参ります。



# 業績予想 セグメント情報 前回予想比較

(単位：億円)

	2023年 年間 (前回予想)		2023年 年間 (今回予想)		前回予想比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンスーマ	1,425	140	1,425	140	-	-	-
エンタープライズ	2,150	176	2,150	186	-	-	+10
エリア	2,394	173	2,394	183	-	-	+10
プロフェッショナル	449	34	449	34	-	-	-
その他	△178	△23	△178	△23	-	-	-
合計	6,240	500	6,240	520	-	-	+20

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

17

17ページ目は、セグメント別業績予想を前回公表値と比較したものです。

エンタープライズセグメント及び、エリアセグメントで、付加価値の高いITソリューションが好調に推移したことを踏まえ、

エンタープライズセグメントで営業利益を10億円

エリアセグメントで営業利益を10億円

上方修正しております。

# 業績予想 セグメント情報 前年予想比較

(単位：億円)

	2022年 年間 (実績)		2023年 年間 (予想)		前年比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,366	139	1,425	140	+59	+4%	+1
エンタープライズ	2,027	171	2,150	186	+123	+6%	+15
エリア	2,266	156	2,394	183	+128	+6%	+27
プロフェッショナル	417	52	449	34	+32	+8%	△18
その他	△194	△19	△178	△23	+16	-	△4
合計	5,881	499	6,240	520	+359	+6%	+21

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

18

18ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

コンシューマセグメント、エンタープライズセグメント、エリアセグメントは増収増益を見込んでおります。

プロフェッショナルセグメントは、ヘルスケアでキヤノンメディカルシステムズからの事業移管等から増収を見込むものの、前年に産業機器で高付加価値な製品やサービスの案件が複数あり、その反動等により、減益を見込んでおります。

# 業績予想 セグメント情報

(単位：億円)

	2022年 1Q-2Q (実績)		2022年 3Q-4Q (実績)		2023年 1Q-2Q (実績)		2023年 3Q-4Q (計画)		増減 1Q-2Q		増減 3Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	628	66	739	73	641	62	784	78	+14	△4	+45	+5
エンタープライズ	1,005	95	1,022	76	1,075	99	1,075	87	+70	+4	+53	+12
エリア	1,128	85	1,138	70	1,186	93	1,208	90	+58	+7	+70	+20
プロフェッショナル	239	41	178	12	220	29	229	5	△19	△12	+52	△6
その他	△101	△9	△93	△9	△95	△11	△83	△12	+7	△2	+10	△3
合 計	2,899	278	2,983	221	3,028	271	3,212	249	+129	△7	+230	+28

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

19-1

19ページ目は、セグメント別の上期の実績及び下期の業績予想の対前年比較となります。

まずは、コンシューマセグメントについてご説明致します。

上期は増収減益でしたが、下期は増収増益を見込んでおります。

下期の売上は、対前年6%増の784億円を見込んでおります。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加等により、対前年5億円増加の78億円を見込んでおります。

レンズ交換式デジタルカメラについては、EOS Rシリーズのラインアップがほぼ出揃ったことにより、前年並みを見込んでおります。交換レンズについては、ラインアップの拡充と積極的な拡販策を実施することにより、売上の増加を見込んでおります。また、2023年6月に発売したVlogカメラ「PowerShot V10」は新規参入製品として、売上に寄与することを見込んでおります。

インクジェットプリンターについては、TS8000シリーズをはじめとする高付加価値製品の拡販に注力することにより、台数は増加する見通しです。インクカートリッジについては、カラープリントの減少等による市場の縮小に伴い減少すると見込んでおります。

ITプロダクトについては、高性能PCやPC周辺機器等による売上の増加を見込んでおります。

次に、エンタープライズセグメントです。

上期同様、下期も増収増益を見込んでおります。

下期の売上は、対前年5%増の1,075億円を見込んでおります。営業利益は、販管費が増加するものの、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年12億円増加の87億円を見込んでおります。

主要ビジネス機器については、オフィスMFPは流通業向けの大型案件の剥落により、台数は減少するものの、レーザープリンターは、金融業向けの大型案件により、台数は大幅に増加する見込みです。

保守サービスやレーザープリンターカートリッジについては、大手企業を中心にテレワークが継続し、オフィスにおけるプリントボリュームは減少することから、売上は減少を見込んでおります。

ITソリューションについては、キヤノンITソリューションズで、製造業、金融業向けのSI案件やデータセンター2号棟の売上が順調に推移するとともに、

キヤノンマーケティングジャパンで、電子帳簿保存法対応や業務プロセス変革を

実現するクラウドサービス「DigitalWork Accelerator」の受注件数を増加させる見込みです。

# 業績予想 セグメント情報

(単位：億円)

	2022年 1Q-2Q (実績)		2022年 3Q-4Q (実績)		2023年 1Q-2Q (実績)		2023年 3Q-4Q (計画)		増減 1Q-2Q		増減 3Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	628	66	739	73	641	62	784	78	+14	△4	+45	+5
エンタープライズ	1,005	95	1,022	76	1,075	99	1,075	87	+70	+4	+53	+12
エリア	1,128	85	1,138	70	1,186	93	1,208	90	+58	+7	+70	+20
プロフェッショナル	239	41	178	12	220	29	229	5	△19	△12	+52	△6
その他	△101	△9	△93	△9	△95	△11	△83	△12	+7	△2	+10	△3
合計	2,899	278	2,983	221	3,028	271	3,212	249	+129	△7	+230	+28

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

19-2

次に、エリアセグメントです。

上期同様、下期も増収増益を見込んでおります。

下期の売上は、対前年5%増の1,208億円を見込んでおります。営業利益は、販管費が増加するものの、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年20億円増加の90億円を見込んでおります。

主要ビジネス機器については、製品の供給が回復してくるから、オフィスMFP、レーザープリンターの台数は増加する見込みです。保守サービス、レーザープリンターカートリッジについては、プリントボリュームは減少するものの、カラー出力比率が高まることや、仕入価格上昇に伴う価格改定の効果等により売上は増加する見込みです。ITソリューションについては、キヤノンシステムアンドサポートで、法改正のためのIT導入補助金活用に関する案件に加え、中小企業のIT環境をトータルで支援する「まかせてIT DXシリーズ」が引き続き好調に推移すると見込んでおります。また、キヤノンマーケティングジャパンで、ビジネスPCやウイルス対策ソフト「ESET」、IT支援クラウドサービス「HOME」等が順調に推移する見込みです。

次に、プロフェッショナルセグメントです。

上期は減収減益でしたが、下期は増収減益を見込んでおります。

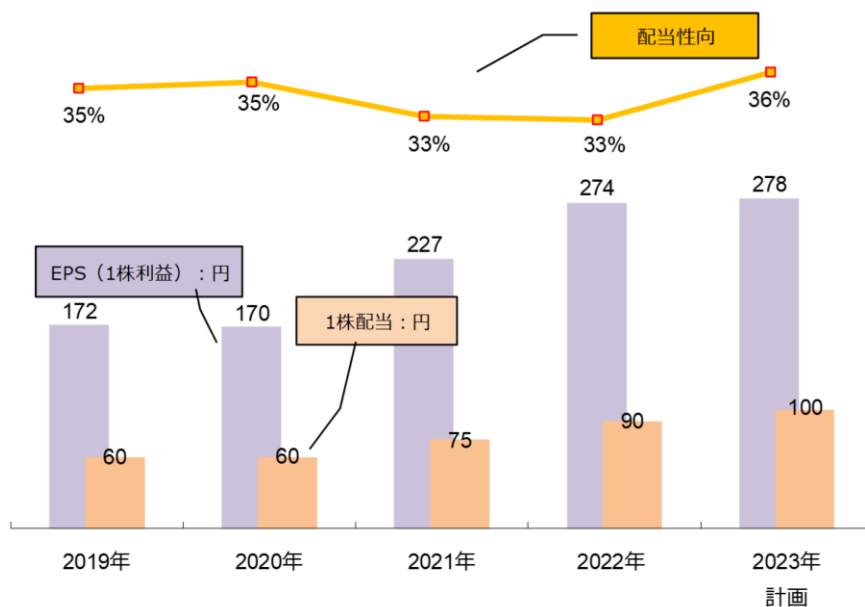
下期の売上は、各サブセグメントで売上が増加することにより、対前年29%増の229億円を見込んでおります。営業利益は、前年産業機器で高付加価値な製品やサービスの案件が複数あり、それらの反動や販管費の増加により、対前年6億円減少の5億円を見込んでおります。

プロダクションプリンティングについては、出版用途等でカラーの連帳プリンターが増加することが見込まれます。また、POPビジネスについても、小売店向けにソフトウェア案件の増加を見込んでおります。

産業機器については、市場により好不調が別れているため、需要が旺盛な市場をターゲットに定めることで、4Qから売上が回復することを想定し、売上の増加を見込んでおります。

ヘルスケアについては、キヤノンメディカルシステムズからの事業移管に加え、オンライン資格確認システムや電子処方箋の導入案件が引き続き増加する見込みです。

## 財務指標推移 配当性向／EPS／配当



20ページ目は、年間の配当予想になります。

今回公表しました業績予想と、これまでの配当性向の実績を踏まえ、  
一株あたり中間50円、期末50円とし、  
年間配当額を90円から、100円に増配することと致しました。

# 【補足資料】主要製品売上・台数

【補足資料】2023年2Q主要製品売上・台数 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

コンスーマ製品  
単位：10億円

製品カテゴリー	2023年2Q	対前年2Q				対前四半期			
		売上	増減	台数	増減	売上	増減	台数	増減
ビジネス用デジタル複写機	(18%)	+3%	+3%	+35%	+1%	+20%	+20%	+11%	+11%
ビジネス用プリンター	(18%)	+6%	+0%	+5%	+1%	+35%	+12%	+11%	+11%
ビジネス用デジタル複写機・プリンター	(18%)	+4%	+6%	+2%	+1%	+18%	+12%	+12%	+12%

ビジネス用製品  
単位：10億円

製品カテゴリー	2023年2Q	対前年2Q				対前四半期			
		売上	増減	台数	増減	売上	増減	台数	増減
ビジネス用デジタル複写機	(18%)	+3%	+3%	+35%	+1%	+20%	+20%	+11%	+11%
ビジネス用プリンター	(18%)	+6%	+0%	+5%	+1%	+35%	+12%	+11%	+11%
ビジネス用デジタル複写機・プリンター	(18%)	+4%	+6%	+2%	+1%	+18%	+12%	+12%	+12%

ITソリューション  
単位：10億円

製品カテゴリー	2023年2Q	対前年2Q				対前四半期			
		売上	増減	台数	増減	売上	増減	台数	増減
ビジネス用デジタル複写機	(18%)	+3%	+3%	+35%	+1%	+20%	+20%	+11%	+11%
ビジネス用プリンター	(18%)	+6%	+0%	+5%	+1%	+35%	+12%	+11%	+11%
ビジネス用デジタル複写機・プリンター	(18%)	+4%	+6%	+2%	+1%	+18%	+12%	+12%	+12%

※ 本資料は、本邦市場（日本）のみの実績を示しています。海外市場の実績は含まれていません。また、本資料は、本邦市場（日本）のみの実績を示しています。海外市場の実績は含まれていません。

当社ホームページに掲載されております  
「2023年12月期第2四半期 補足資料 PDF」を  
ご覧ください。

- 掲載URL  
<https://canon.jp/corporate/ir>  
(当社トップページ>企業情報>投資家向け情報>IR資料>決算説明会資料)

21ページ目は、補足資料として掲載しております「主要製品売上・台数」表についてご説明致します。

ホームページに掲載されておりますので、お手元にご用意頂ければと思います。

2Qの実績については、セグメント情報でお伝えしている通りです。  
ここでは、セグメント情報でお伝えしていない、「商業印刷」「ネットワークカメラ」の実績についてご説明致します。

まずは、「商業印刷」です。  
「ビジネス機器」の下から2行目に、プロフェッショナルセグメントのプロダクションプリンティングに、他セグメントの売上となっているプロダクションプリンティングビジネスを加えたグループトータルの「商業印刷」の増減を記載しております。  
2Qのグループトータルの「商業印刷」は、対前年プラス12%となりました。

次に、「ネットワークカメラ」です。  
「商業印刷」の下に、グループトータルの「ネットワークカメラ」の売上の増減を記載しております。  
製品の供給が回復してきていることに加え、映像の統合管理やクラウド活用のニーズが高まっていることにより、大手企業向けビデオ管理ソフトウェア「XProtect」や、中小企業向けクラウド型録画サービス「VisualStage」等の映像基盤案件が増加し、2Qのグループトータルの「ネットワークカメラ」の売上は対前年プラス11%となりました。

続いて、2023年の見通しについて、前回公表値からの変更箇所をご説明致します。

「オフィスMFP」「レーザープリンター」は、上期の実績や今後の市場見通しを踏まえて、オフィスMFPの台数の見通しを対前年プラス9%からプラス7%、レーザープリンターの見通しを対前年プラス4%からプラス3%へ変更致しました。

「ITプロダクト・システム販売」は、ビジネスPCの需要が想定よりも拡大していることや、複数のIT基盤案件を獲得したことから、見通しを対前年プラス2%からプラス5%へ変更致しました。

その他は変更ございません。

**Canon**

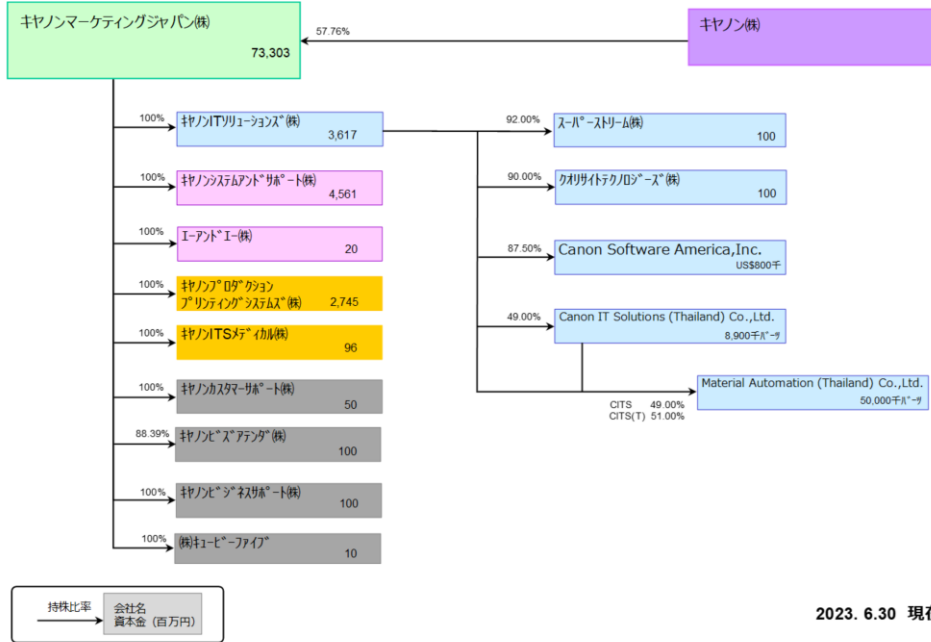
キヤノンマーケティングジャパングループ

2023年第2四半期決算と業績予想に関するご説明は以上となります。  
ありがとうございました。

## 参考資料



# 関係会社出資関係図



2023. 6.30 現在

# 主要関係会社実績 第2四半期(4月～6月)

(単位：億円)

		2022年 2Q	2023年 2Q	増減	
				金額	率
<b>エンタープライズ</b>					
キヤノンソリューションズ	売上高	273	307	+34	+12%
	営業利益	27 (9.8%)	28 (9.1%)	+1 (△0.8%)	
<b>エリア</b>					
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	242	257	+15	+6%
	営業利益	11 (4.7%)	12 (4.7%)	+1 (△0.0%)	
<b>プロフェッショナル</b>					
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	21	23	+2	+11%
	営業利益	1 (4.9%)	2 (6.4%)	+0 (+1.6%)	

# 主要関係会社実績 第2四半期累計(1月～6月)

(単位：億円)

		2022年 1Q-2Q	2023年 1Q-2Q	増減	
				金額	率
<b>エンタープライズ</b>					
キヤノンITソリューションズ	売上高	550	617	+68	+12%
	営業利益	64 (11.7%)	67 (10.8%)	+2 (△0.9%)	
<b>エリア</b>					
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	490	525	+34	+7%
	営業利益	26 (5.2%)	30 (5.6%)	+4 (+0.4%)	
<b>プロフェッショナル</b>					
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	44	43	△1	△2%
	営業利益	3 (6.7%)	2 (5.7%)	△1 (△1.0%)	

販管費の内訳 第2四半期(4月～6月)

(単位：億円)

	2022年 2Q	2023年 2Q	増減
広告宣伝費	10	11	+1
販売促進費	7	7	△0
保証費	7	7	+0
その他直接費	43	44	+1
人件費	232	233	+1
減価償却費	2	2	△0
その他販売費	71	75	+4
合計	372	380	+8

販管費の内訳 第2四半期累計(1月～6月)

(単位：億円)

	2022年 1Q-2Q	2023年 1Q-2Q	増減
広告宣伝費	18	21	+3
販売促進費	13	15	+2
保証費	14	15	+1
その他直接費	83	87	+4
人件費	459	460	+2
減価償却費	5	5	△0
その他販売費	137	146	+9
合計	729	749	+20

# 営業外収支の内訳

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

(単位：億円)

	2022年		2023年		増減	
	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q
受取利息	1	1	1	2	+0	+0
受取配当金	1	1	1	1	+0	+0
受取保険金	4	4	4	5	+0	+0
その他	1	1	1	1	△0	△0
営業外収益 計	7	9	7	9	△0	+0
支払利息	0	0	0	0	+0	△0
為替差損	△0	1	0	0	+1	△0
投資事業組合運用損	0	2	△0	0	△0	△1
その他	0	1	0	1	+0	△0
営業外費用 計	0	3	1	1	+1	△2

## 特別損益の内訳

(単位：億円)

	2022年		2023年		増減	
	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q
固定資産売却益	0	0	0	0	+0	+0
投資有価証券売却益	-	0	1	1	+1	+0
その他	0	0	-	-	△0	△0
特別収益 計	0	0	1	1	+1	+0
固定資産除売却損	0	0	3	4	+3	+3
関係会社株式売却損	-	-	-	2	-	+2
投資有価証券評価損	0	0	-	-	△0	△0
その他	0	0	0	0	+0	+0
特別損失 計	0	1	3	5	+3	+5

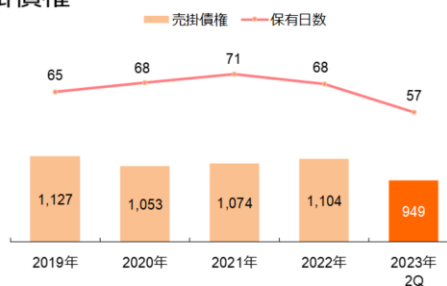
# 貸借対照表

(単位：億円)

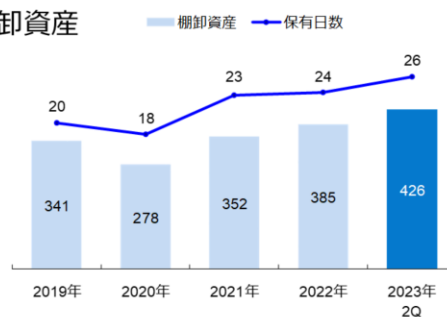
	2022年 12月	2023年 6月	増減
<b>資産</b>	5,437	5,557	+120
流動資産	4,197	4,297	+100
金融資産	846	1,032	+186
売掛債権	1,104	949	△155
棚卸資産	385	426	+41
その他	1,861	1,889	+27
固定資産	1,240	1,261	+20
有形固定資産	853	853	+0
無形固定資産	60	59	△1
投資その他	328	348	+21
<b>負債</b>	1,434	1,417	△17
流動負債	1,081	1,071	△10
費掛債務	474	444	△29
その他	607	626	+19
固定負債	353	346	△7
<b>純資産</b>	4,004	4,140	+137
株主資本	3,874	3,996	+122
(自己株式)	△21	△21	+0
その他の包括利益累計額	121	136	+14
新株予約権	0	0	+0
非支配株主持分	8	8	+0
株主資本比率	73%	74%	+1%

## ■ 売掛債権

(単位：億円)



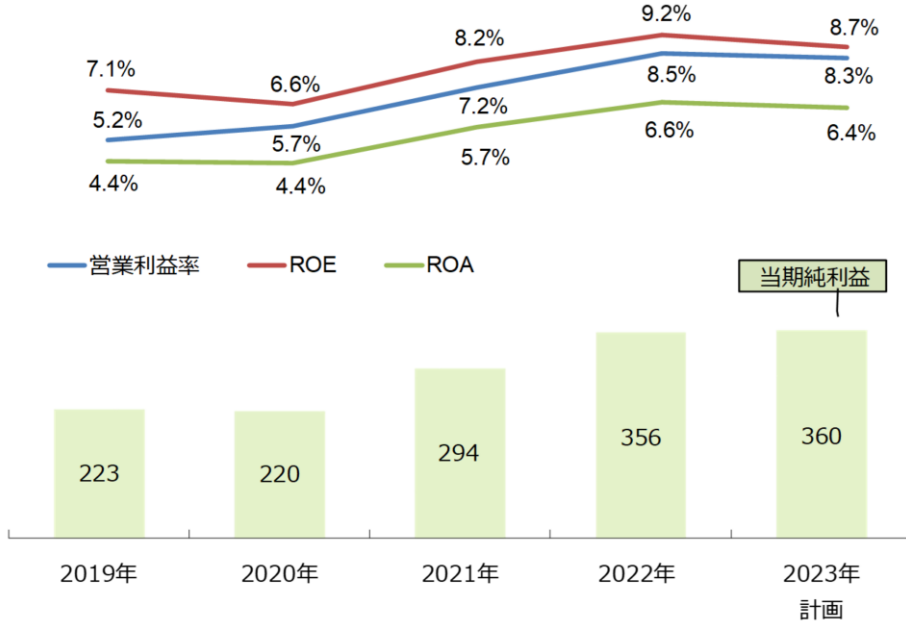
## ■ 棚卸資産





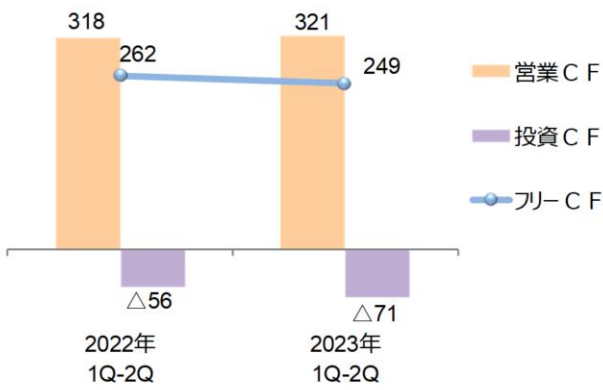
# 財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE

(単位：億円)



# キャッシュ・フロー／設備投資・減価償却

## ■ キャッシュ・フロー



## ■ 設備投資

(単位：億円)

	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 計画	年間
2022年 実績	35	56	91
2023年 計画	49	56	105

## ■ 減価償却

	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 計画	年間
2022年 実績	49	47	96
2023年 計画	48	49	97

**Canon**

キヤノンマーケティングジャパングループ